

7章 執筆力

年 組 番 氏名

今回の授業の位置づけ

○探究活動の最終的な作業として位置づけられているのが、「発表・まとめ」です。発表の具体的方法としてのプレゼンテーション・ポスター発表等については既に「学びの技法」で学習しました。しかし「発表・まとめ」の方法はそれだけではありません。今回は探究活動の成果を発表する際の主たる形態である、学術的文書（いわゆる論文・レポート）にまとめる際の「執筆力」について学びます。

○探究活動における「発表・まとめ」は、探究課題の解決策を他者に向かって伝え、一方で他者の考えも聴くことで自らの考えを拓げることにつながります。また、実際に実行した結果から、本当にその案でよかったのかと振り返りを行い、今後につなげていくことが必要です。つまり言い換えるなら、本章は問題解決における「伝え共有し、実行し振り返る」ためのステップと考えることができるのです。

ねらい

- 学術的文書を執筆する基本的能力を習得するために、ワークを通して学術的文章の特徴を理解する。
- 論理を明確にするための技法である「パラグラフ・ライティング」について理解する。

1. 学術的文章とは？

課題1

(1) ねらい

- 学術的文章の構造を理解する。

(2) 内容

- 1 原則2人のグループをつくる。
- 2 **ワーク1**に各自で取り組む。
- 3 2の内容をグループ内で発表し合い、各自の解答の共通点と相違点をふまえつつ、グループとしての意見をまとめる。
- 4 いくつかのグループが解答を発表する。
- 5 先生の指示に従い答え合わせをおこない、グループの回答と比較する。

ワーク1

学術的文章の「3要件」とは、以下のことをいいます。

- (1) 何らかの「問題」を提起している。
- (2) 問題に対して、「理由」を示しながら、論理的に「解答」（結論）している。
- (3) 理由を裏付けるために、「証拠」を提示（文献やデータなどの資料を引用）している。

【参考】『大学生のためのリサーチリテラシー入門』（山田剛史、林創著 ミネルヴァ書房 2011 p134）

では、次の文章を読んでください。学術的文章の「3要件」に該当する部分を、それぞれ答えなさい。

一般に、子供は成長する過程で、親や教師から「うそをつくな」と繰り返し教えられるものである。この背後には、「うそは悪いこと」という考えがあると思われる。しかし、子供の心の発達にとって、うそは悪いことなのであろうか。

たしかに、子供は成長するにつれて、相手の心に敏感になり、相手の知らないことを見抜いてうそをつくようになる。自分の欲望を満たすために、うそをついて相手を傷つけることは、子供といえども許されることではない。しかし、相手の心に敏感になるということは、物事を相手の視点から考え、共感できるようになることでもある。例えば、嬉しくないプレゼントをもらっても、しだいに笑顔が出来るようになる。これもうその一種といえるが、「相手を傷つけないためのうそ」である。このように、他者の感情を推測して自分自身の感情の表出や行動をコントロールすることを「表出ルール」という（清水、2009）

こうした表出ルールの発達を考えると、うそは社会性の発達の現れとも考えられるだろう。それゆえ、子供の発達にとって、うそはかならずしも悪いものではないと思われる。

【引用文献】清水由紀(2009). 児童期②：友人とのかかわりと社会性の発達 藤村宣之（編著）発達心理学一周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか ミネルヴァ書房 pp.108－124

ワーク1 学術的文章の「3要件」に該当する部分をそれぞれ解答して下さい。

（1）何らかの「問題」を提起している。

（2）問題に対して、「理由」を示しながら、論理的に「解答」（結論）している。

（3）理由を裏付けるために、「証拠」を提示（文献やデータなどの資料を引用）している。

2. 学術的文章を作成するためのポイント

課題2

(1) ねらい

○学術的文章を作成するために必要な技術について、ワークを通して理解する。

(2) 内容

- 1 原則2人のグループをつくる。
- 2 **ワーク2**に各自で取り組む。
- 3 2の内容をグループ内で発表し合い、各自の解答の共通点と相違点をふまえつつ、グループとしての意見をまとめる。
- 4 いくつかのグループが解答を発表する。
- 5 先生の指示に従い答え合わせをおこない、グループの回答と比較する。

ワーク2

まずは、「事実と意見の区別」について述べた以下の文章を読み、その内容を理解しましょう。

「事実」は証拠をあげることができるもので、「意見」はある人が考えた判断のことです。たとえば、「東京は日本の首都である」は事実ですが、「東京は日本の魅力的な都市である」は意見です。なぜなら、東京が日本の首都であることは、文献や資料などを提示して証明できますが、東京が魅力的な都市かどうかは主観的なものであり、魅力を感じる人もいれば、感じない人もいるからです。

理由の確からしさを考える上で、事実と意見の区別が大切です。

たとえば、

ア) 東京は日本の首都である。だから、東京に空港整備の予算を重点配分すべきだ。

イ) 東京は日本の魅力的な都市である。だから、東京に空港整備の予算を重点配分すべきだ。

を比較すると、同じ結論であっても、後者の方がより弱く感じませんか。それは、前者の理由は事実なのに対して、後者の理由は意見なので、主観的で結論を十分に支えきれないからです。

【引用文献】『大学生のためのリサーチリテラシー入門』（山田剛史、林創著 ミネルヴァ書房 2011 p121）

ワーク2

(1) 以下の文章を読み、この文章の問題点がどこにあるか、考えなさい。

子どもの成長を見ていると、本質は家庭環境にあると言えるかもしれない。私は、家庭で親が子どもと接触する時間が長ければ長いほど、道徳性や教養が備わった人間に育つと思っている。だから、子育てをするには、できるだけ、幼いころから子どもと一緒に遊んであげることが重要だ。

(2) この文章の問題点を解決する具体的な方法について、考えなさい。

3. わかりやすい文章について考える

課題3

(1) ねらい

○パラグラフ・ライティングの構造を理解し、読みやすい文章の書き方について考察する。

(2) 内容

- 1 原則 2 人のグループをつくる。
- 2 **ワーク3**に各自で取り組む。
- 3 2の内容をグループ内で発表し合い、各自の解答の共通点と相違点をふまえつつ、グループとしての意見をまとめる。
- 4 いくつかのグループが解答を発表する。
- 5 先生の指示に従い答え合わせをおこない、グループの回答と比較する。

ワーク3

まずは、「パラグラフ・ライティング」に関して述べた以下の文章を読み、その内容を理解しましょう。

『パラグラフ・ライティング入門』

日本語の「段落」にあたるものを、英語では「パラグラフ」と呼びます。1つの「パラグラフ」は一貫して1つの話題について書かれていなければなりません。この話題のことを「主題 (Topic)」と呼びます。「主題」はパラグラフ全体を統括しているテーマとも言えます。

そして、1つの主題について書き手の一番言い表したいことを示した文を「主題文 (Topic Sentence)」と呼びます。日本語では段落の最後で結論を示す文章展開がよく使われますが、英語では最初に一番言い表したいことを述べて、そのあとの文でそれをより具体的に説明したり、理由を述べていく形が多く使われます。

英語の「パラグラフ」の概念は、次のようになります。「主題文」の後ろに置かれて、主題文を補足説明したり理由を述べたりするための文を「支持文 (Supporting Sentence)」と呼び、ふつう複数の文から構成されます(「支持文」にはいくつかの典型的なパターンがありますが、それらについては英語表現Ⅱで学ぶことになります。)

最後に「結論文 (Concluding Sentence)」とありますが、これはその名前が示すとおり、その「パラグラフ」で述べたことをまとめる文です。

「パラグラフ」は英語独特の文章展開で、これは読み手にとって大変理解しやすい構造だと言えます。なぜなら先に進めば進むほど、物事がより具体的に説明されていくからです—このような英文の書き方を「パラグラフ・ライティング (Paragraph Writing)」と呼んでいます。

「パラグラフ・ライティング」では2つの基本原則—「1つのパラグラフでは一貫して1つの話題について書くこと」、「言いたいことを先に述べて、そのあとの文でそれをより具体的に説明したり理由を述べたりしていくこと」を守らないといけません。これを実践することによって、読み手にとってわかりやすい英文を書くことが可能になるからです。

実際の英語のパラグラフでは、「主題文」がはっきりしないものもあれば、「結論文」のないものもあります。しかし、初めからそのような書き方をしていたのでは「パラグラフ・ライティング」の感覚は身につけません。私たちとしては、常に「主題」を意識して、「主題文」「支持文」「結論文」のはっきりした英文を書くことを心がけましょう。

【引用文献】『POLESTAR English Expression I』(数研出版 2016 p108—109)

では、以下の英文を読み、「主題文」・「支持文」・「結論文」に該当する内容を、日本語で答えてください。

I made a big mistake on my trip to New York last year. I went to a sandwich shop and ordered some sandwiches and a large iced tea. When my order was served, I was very surprised. They gave me a bucket-sized cup, and I left half of it. I hadn't known "a large iced tea" means "one in such a big bucket-sized cup" in New York. I should have ordered a smaller size.

ワーク3

主題文

支持文

結論文

4. パラグラフ・ライティングの構造に慣れる

課題4

(1) ねらい

○ワークを通して、パラグラフ・ライティングの構造に慣れる。

(2) 内容

- 1 原則 2 人のグループをつくる。
- 2 **ワーク4**に各自で取り組む。
- 3 2の内容をグループ内で発表し合い、各自の解答の共通点と相違点をふまえつつ、グループとしての意見をまとめる。
- 4 いくつかのグループが解答を発表する。
- 5 先生の指示に従い答え合わせをおこない、グループの回答と比較する。

ワーク4

パラグラフ・ライティングに慣れるためには、文章の構造について理解を深める必要があります。まずは、「ピラミッド構造」に関して述べた以下の文章を読み、その内容を理解しましょう。

ここでは、バーバラ・ミント（『考える技術・書く技術』 1973）が考案したピラミッド構造を使って、文章構造の整理の仕方を学んでいきましょう。

ピラミッド構造とは、文章の中で述べたいことをピラミッド型の形で整理する考え方のこと。「高校生と大学生との違い」についての文章を書くことを例にとり、みていきます。

(1) 箱を一つ書き、主題を書く

まずは箱を一つ書き、そこに文章を通してあなたの伝えたい意見や主題を書きます。

(2) 「なぜ（どうして・どうやって）？」に答える

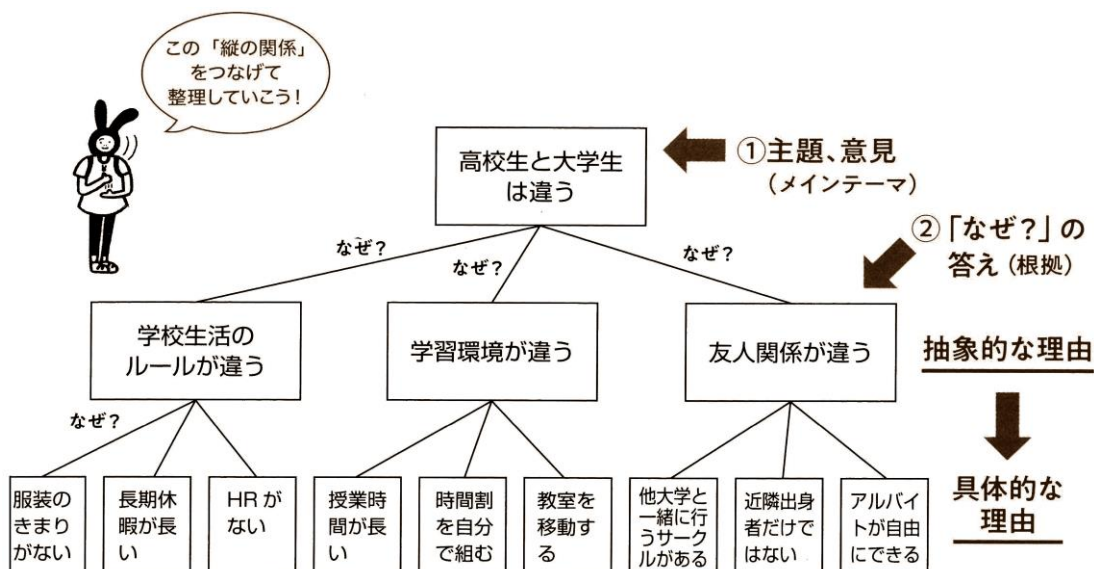
次に、その下に枠を作り、主題に対し、「なぜ？」と問いかけた答えを書きましょう。もちろんその際の答えは一つとは限りませんので、考えるものを書き留めておきます。

項目が多すぎる場合は、それらのいくつかをまとめてグループにくくれないかを考え、二つか三つほどにまとめておきましょう。

(3) 疑問がなくなるまで「なぜ？」を繰り返す

実際にピラミッドを基に、文章を書いた後のことを考えましょう。文章は自分のためではなく、読み手の疑問を解決するために書くものです。読んでくれる相手のことを考え、疑問が解決できている、と思える状態まで繰り返し問いかけます。

例えばピラミッドの完成のイメージは、次の図のようになります。



ワーク4

以下の「文化祭の屋台で収益を上げるためには」について考えたあるグループの会話文を読み、先生に説明するために書く文章の構造を整理しましょう。A～C君は昨年焼きそば屋を出店し、今年も、と考えているようです。以下の会話を踏まえ、下のピラミッド構造の①～⑥を考えて記入して下さい。

A：収益を上げるってどうしたらいいんだろうね？

B：単純に考えたら、売上があがるといいんじゃない？とにかく売りまくる！みたいな。

C：いや、そりゃそうなんだけどさ。売りまくるにはどうするかっていう話し。

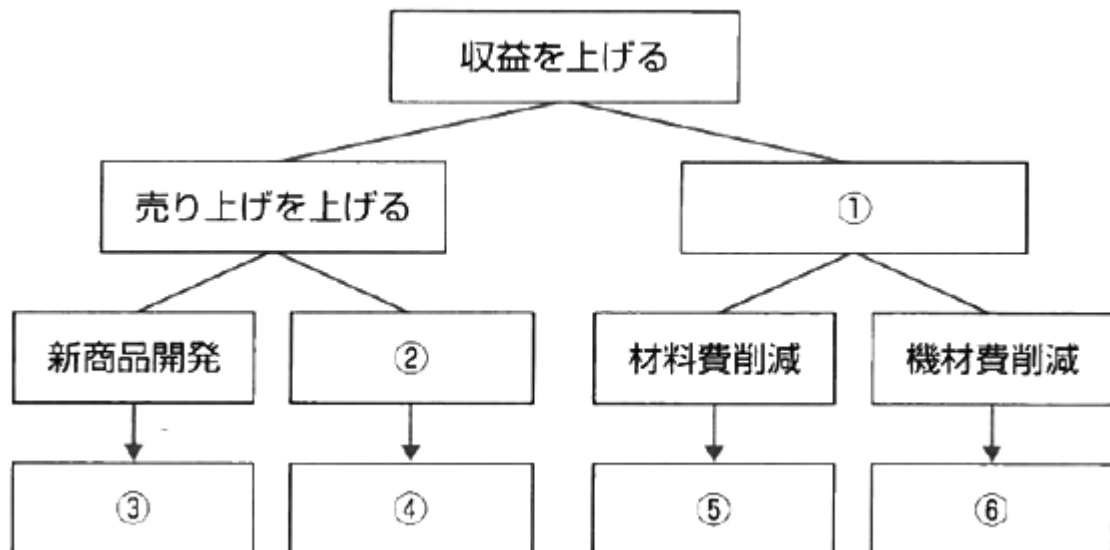
B：まあ去年と一緒だと人は来ないよなー。新商品とかどう？

A：それいいね、何か考えられるかも。あ、でも去年のこと思い出したけど、結構材料費と機材のレンタル代も高かったよな。

C：意外とするんだよね。ここも何とかできるといいんだけど。

B：あと去年は全然人がこなかった！

A：そうそう！まず店だしてるの知らない人も結構いたし。今年は人を呼びたいね。



①

②

③

④

⑤

⑥

振り返り 〈リフレクションシートの記入及び回収〉

執筆力 リフレクションシート

年		組		番号		氏名	
---	--	---	--	----	--	----	--

1 日時： _____月 _____日（ ） _____校時

2 振り返り

Q 1：以下の文章を読み、学術的文章として不適切だと思われる点をあげなさい。

近年、子供が親を殺してしまうという痛ましい事件を頻繁に聞くようになった。この背後には、親が子どもの適性や心の発達を考えず、自分の価値観を押しついたり、無理難題を強いていることがあるのではないだろうか。

・・・（中略）・・・

私は将来、子供の心がわかってあげられる親になりたいと心から思う。そのためには、大学でしっかりと心理学を学び、また、ボランティアで子供たちと接する機会を増やすことが大事だと思うので、努力していきたい。

--

Q 2：以下の文章を読み、問題・結論・理由にあたるものを（a）～（e）の中から選びなさい。

（a）21 世紀に入り、さまざまな面で国際化するスピードは増すばかりである。（b）これからの時代を生きていく上で、英語教育を拡充していくべきだろうか。（c）日本人の英語力が低いのは、多くの国際調査でも明らかになっている。（d）しかし、事はそう単純ではない。（e）じつは、日本の子供達は、日本語の読み書きすら正確にできないこともわかってきている。（f）したがって、日本語の教育の充実が重要であろう。

--

以下、該当する番号のマークを塗りつぶしてください。

Q3 今回の課題に、あなたはどのように関わりましたか。 ①積極的にできた ②まあまあ取り組めた ③うまく参加できなかった	①	②	③			●
Q4 今回の授業の難易度はどうでしたか。 ①易しかった ②ちょうど良かった ③難しかった	①	②	③			●
Q5 今回の授業の時間設定はどうでしたか。 ①時間が余ってしまった ②ちょうどよかった ③時間が足りなかった	①	②	③			●



今回の授業の位置づけ

○探究活動の最終的な作業として位置づけられているのが、「発表・まとめ」です。発表の具体的方法としてのプレゼンテーション・ポスター発表等については既に「学びの技法」で学習しました。しかし「発表・まとめ」の方法はそれだけではありません。今回は探究活動の成果を発表する際の主たる形態である、学術的文書（いわゆる論文・レポート）にまとめる際の「執筆力」について学びます。

○探究活動における「発表・まとめ」は、探究課題の解決策を他者に向かって伝え、一方で他者の考えも聴くことで自らの考えを拓けることにつながります。また、実際に実行した結果から、本当にその案でよかったのかと振り返りを行い、今後につなげていくことが必要です。つまり言い換えるなら、本章は問題解決における「伝え共有し、実行し振り返る」ためのステップと考えることができます。

ねらい

- 学術的文書を執筆する基本的能力を習得するために、ワークを通して学術的文章の特徴を理解する。
- 論理を明確にするための技法である「パラグラフ・ライティング」について理解する。

時間	ねらい・内容・留意点
課題 1 (25 分)	1. 学術的文章とは？ ねらい【5分】 ○授業の位置づけを理解する。 ※最初に「今回の授業の位置づけ」と「ねらい」を精読させ、理解させてください。 内容【20分】 【ワーク】 ※先生はタイムキーパーとなり、ワークに取り組ませてください。 ※時間はあくまでも目安です。実際の生徒の動きをみながら、柔軟に対応してください。 1 原則 2 人のグループをつくる。 2 ワーク1に各自で取り組む。 ※生徒の活動が緩慢(居眠り等)になり精読させるのが難しいようであれば、代表者に読ませたりしながら、生徒の実態にあわせて柔軟に対応してください。 3 2の内容をグループ内で発表し合い、各自の解答の共通点と相違点をふまえつつ、グループとしての意見をまとめる。 4 いくつかのグループが解答を発表する。 5 先生の指示に従い答え合わせをおこない、グループの回答と比較する。 ※ワーク1は、学術的文章について理解を深めることを目的としたものです。 先生は生徒の様子をみながら、タイムキーパーをお願いします。 ※グループの発表後、必要に応じて、解答の提示をお願いします。

	【解答例】 (1) 何らかの「問題」を提起している。 「子供の心の発達」について、「うそは悪いことなのか」 (2) 問題に対して、「理由」を示しながら、論理的に「解答」(結論) している。 「社会性の発達」という理由をあげ、「かならずしも悪くない」という解答(結論)を提示。 (3) 理由を裏付けるために、「証拠」を提示(文献やデータなどの資料を引用) している。 「清水(2009)」という文献を引用し、「表出ルール」の考え方をを用いて、「証拠」を提示している。 以上、「3要件」を充たしていることから、この文章は学術的文章と言えそうである。
課題2 (25分)	2. 学術的文章を作成するためのポイント ねらい ○学術的文章を作成するために必要な技術について、ワークを通して理解する。 内容【20分】 【ワーク】 ※先生はタイムキーパーとなり、ワークに取り組ませてください。 ※時間はあくまでも目安です。実際の生徒の動きをみながら、柔軟に対応してください。 1 原則2人のグループをつくる。 2 ワーク2に各自で取り組む。 ※生徒の活動が緩慢(居眠り等)になり精読させるのが難しいようであれば、代表者に読ませたりしながら、生徒の実態にあわせて柔軟に対応してください。 3 2の内容をグループ内で発表し合い、各自の解答の共通点と相違点をふまえて、グループとしての意見をまとめる。 4 いくつかのグループが解答を発表する。 5 先生の指示に従い答え合わせをおこない、グループの回答と比較する。 ※ワーク2は、学術的文章を作成するに留意する点について理解を深めるものです。 先生は生徒の様子をみながら、タイムキーパーをお願いします。 ※グループの発表後、必要に応じて、解答の提示をお願いします。 【解答例】 (1) 以下の文章を読み、この文章の問題点がどこにあるか、考えなさい。 理由として書かれている「親が子供と接触する時間が長いほど、道徳性や教養が備わ

	った人間に育つと思っている」は、主観的な意見。 つまり、理由が「意見」である点が問題点である。 (2) この文章の問題点を解決する具体的な方法について、考えなさい。 「親が子供に接する時間の長短と、その子供が成長した後の道徳性や教養の程度の高低」の関係について何らかの文献やデータを見つけ、事実として証拠を提示する。
課題3 (20 分)	3. わかりやすい文章について考える ねらい ○パラグラフ・ライティングの構造を理解し、読みやすい文章の書き方について考察する。 内容【20 分】 【ワーク】 ※先生はタイムキーパーとなり、ワークに取り組ませてください。 ※時間はあくまでも目安です。実際の生徒の動きをみながら、柔軟に対応してください。 1 原則 2 人のグループをつくる。 2 ワーク3に各自で取り組む。 ※生徒の活動が緩慢(居眠り等)になり精読させるのが難しいようであれば、代表者に読ませたりしながら、生徒の実態にあわせて柔軟に対応してください。 3 2の内容をグループ内で発表し合い、各自の解答の共通点と相違点をふまえつつ、グループとしての意見をまとめる。 4 いくつかのグループが解答を発表する。 5 先生の指示に従い答え合わせをおこない、グループの回答と比較する。 ※ワーク3は、パラグラフ・ライティングの構造に対する理解を深めるものです。 先生は生徒の様子をみながら、タイムキーパーをお願いします。 ※グループの発表後、必要に応じて、解答の提示をお願いします。 【解答例】 主題文：私は去年のニューヨークへの旅行で大きな失敗をしました。 支持文：サンドイッチ店に行き、サンドイッチと大きなアイス・ティーを注文しました。 注文が届いて驚きました。バケツ大のカップが私に出され、私はその半分を残しました。ニューヨークでは「大きなアイス・ティー」は「そんなにも大きなバケツ大のカップに入ったもの」だとは知りませんでした。 結論文：私はもっと小さなサイズを頼むべきでした。

課題 4 (25 分)	4. パラグラフ・ライティングの構造に慣れる ねらい ○ワークを通して、パラグラフ・ライティングの構造に慣れる。 内容【25分】 【ワーク】 ※先生はタイムキーパーとなり、ワークに取り組ませてください。 ※時間はあくまでも目安です。実際の生徒の動きをみながら、柔軟に対応してください。 1 原則 2 人のグループをつくる。 2 ワーク4に各自で取り組む。 ※生徒の活動が緩慢(居眠り等)になり精読させるのが難しいようであれば、代表者に読ませたりしながら、生徒の実態にあわせて柔軟に対応してください。 3 2の内容をグループ内で発表し合い、各自の解答の共通点と相違点をふまえつつ、グループとしての意見をまとめる。 4 いくつかのグループが解答を発表する。 5 先生の指示に従い答え合わせをおこない、グループの回答と比較する。 ※ワーク4は、学術的文章を執筆する際の基本となる、文章の構造に対する理解を深めるものです。 先生は生徒の様子をみながら、タイムキーパーをお願いします。 ※グループの発表後、必要に応じて、解答の提示をお願いします。 【解答例】 ①コストを削減する。 ②顧客の獲得。 ③地元の物を使った商品の開発。 ④SNS を使い、お店の宣伝をする。 ⑤八百屋さんとまとめて大量に買うことで、割り引きできないか交渉する。 ⑥クラス内で呼びかけ、家で用意できるものを各自持ち寄る。
振り返り (5 分)	内容 ○リフレクションシートに記入。